



八幡神社幣殿 2.68 坪

に付け加え、改築した拝殿にそれぞれ接続した。金幣、御鏡、太鼓等が両殿共に設置される。

随神門

「隨身門」とも書き、神域に邪悪なものが入り来るのを防ぐ御門の神を祀る門である。この門の左右に安置されている神を「随神」といい、矢大神・左大神という俗称で呼ばれる



瓦葺きの随神門正面（昭和7年）

現在の随神門の設計は、内務省神社局の技師角南隆氏が行い、施行は森田徳太郎（京都市東本願寺）、屋根は屋根師児島金三郎（現株式会社児島工務店）があたり、建築費は五千円であったが、その内二千円を早島町出身の児島熊吉氏が寄進した。

近郷で角南氏の設計による社殿は、岡山県護国神社（岡山市中区奥市）、吉備津彦神社（岡



随神門解体直前（昭和7年8月10日）

山市北区一宮）、鴻八幡宮（倉敷市児島下の町）などがある。その後、檜皮葺きの屋根が老朽化したため、昭和三十八年銅板に変更し葺き替えを行った。屋根下地工事を溝手二級建築士事務所が行い、屋根葺きを岡本周治氏（早島町花町）が施行した。屋根面積は二九、一七坪、葺かれた銅板は厚さ〇、二五ミリで、一、九〇〇枚使用した。



流れ向拝一对の御前神社拝殿

御前神社（岡山市南区妹尾八九七一一）
彦五十狭芹彦命（吉備津彦命）を祀る妹尾西磯の氏神。
向かって左側に吉備津彦命を祀り、右側に豊玉彦命を祀る龍王宮が配されている。
双殿造りの拝殿は昭和二十五年の改築。左右に流れ向拝一对が付く。本殿は彦五十狭芹彦命を祀る向かって左側が大きい。



唐破風一对に千鳥破風の素盞鳴神社拝殿

素盞鳴神社（岡山市南区飽浦一三八九）
素盞鳴尊と伏見稻荷大社から勧請された稻荷宮（倉稲魂命）を祀っている。
備陽記（江戸期）に「両社は同一境内にあり、本殿は別だが、拝殿は両社共通の特異な建て方である。」と記されており、この頃から双殿造りであったようである。左右に唐破風の向拝一对が付く、中央に千鳥破風が付く。



鶴崎神社幣殿 4.18 坪

幣殿
幣殿は、御幣を奉り、献上物を置く建物である。一般的には御幣や御鏡等を設置し、神饌を供え神職が祝詞を奏上する建物として使用する。
当社の幣殿は、早島町史によると明治二十七年（二十八）年の拝殿改築に伴い、鶴崎神社側を桁行二間、梁行二間であったものを桁行二間、梁行一間半に縮小して改築し、八幡神社側には無かつた幣殿を桁行二間、梁行一間として新た